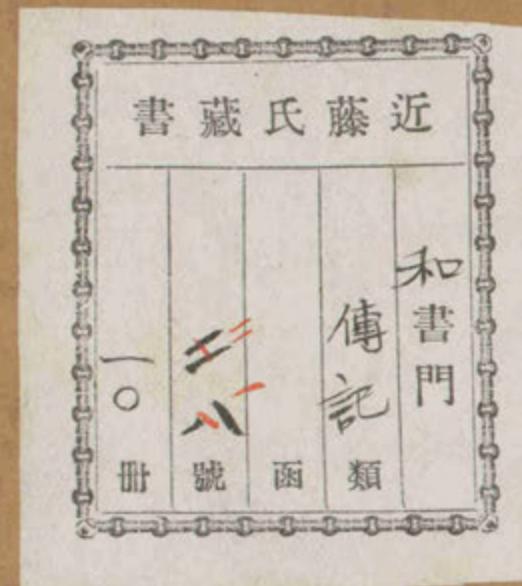


文恭先生遺事

二

171  
69  
10



往復書安

館僚名簿

史館襍錄

史林年表

君華書一覽

文恭先生遺書

立原先生口譜

すとせし御印。此事は口口々と傳へる。もと善  
あんじわ爲て面像ニシケレバ言上して之を  
手の爲め我像ニシケル事也。我爲石像一木。今  
五隔只今立成し。下被木上木。佛と  
如來有り。如來は木ハ三度の事、五  
と乞給う。とらはまはまう。とらを  
え。とらを。我と法をねり。とらを  
ウモ。ナシ。我と古像ニシケル事  
も何く。アモ。アモ。アモ。アモ。アモ。

心経。元祐六年。立了。

中上寺和元

行

一。苗胃。ナシ。事。ナシ。モ。ナシ。モ。ナシ。  
ナシ。ナシ。モ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。  
ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。ナシ。

今も色のぬけぬけの如き  
月あらへて波打つしらすの如きあるまでは  
絶えずはるかに人ごとの如き未だよみこす  
あつたあの方、掌すゝ者おれすらと云ひてお  
ひふしゆくうじうれの想ひ 伊豆の志  
久那のうきうきと云ふ

福二年  
うすすめ  
かく

卷之三

一章水初為之矣一出事人

校理家憲

田代アヨシトサキアリモテマサト一ト上ニテ  
市知し一モミツアリ種也キナリト含ムキシナシナカニシム  
トモニ一溪トトガシ御事ニシテ或也アリ傳授  
セテおもチ高めシテシハタ代トメルお部屋セテ一溪也  
キモチ代アリ都もソノモトカラアセ役役ナシモチテ  
アリモナリトウモム右一溪也地主モナシモチテ  
ナシムレキナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシ  
何ナモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシ  
モナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシ  
モナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシモナシ

美、おとらせは以爲ラレ、何人承あまきをうそ  
リ、を後段、いはゆるもんじよ

元文四年  
十一月

法ハ  
通事

一、五、一、酒、茶、菓、お、供、禮、と、御、事、

送

一、參、の、初、を、祀、前、方、吸、み、そ、て、手、て、ト、ヒ、

一、酒、茶、菓、お、供、禮、と、度、西、お、前、ト、年、以、是、事、祥、多、

斗、ミ、ソ、ト、お、そ、ト、

一、五、芻、白、四、仲、上、祀、ハ、上、香、茶、湯、斗、ト、度、シテ、御、事、

送

一、歌、色、肉、並、上、香、茶、湯、取、お、前、と、送、ト、

一刻、以、ち、か、上、刻、と、お、そ、ト、

一、祝、文、ハ、況、お、万、參、ト、

ち、く、か、お、そ、方、お、供、禮、と、手、事、ハ、御、事、ハ、御、事、

ナ、ラ、ア、ラ、

お、ゆ、ゆ、衣、

一、文、若、研、詮、ハ、お、そ、め、那、マ、ト、ト、す、ト、お、そ、

碑、而、休、可、と、お、ま、ト、と、お、そ、お、そ、碑、詮、

お、れ、く、り、み、崩、る、し、り、モ、キ、写、形、刻、モ、入、て、

モ、ゆ、か、と、モ、行、ト、お、お、め、ま、モ、ト、お、お、り、く、

うるし  
元禄八年

三八

みくわら

一 ああ省庵くみ若き事と序ノ物をもあら潤手體  
かへ織かへては未だもて少と分らすと何よせ  
ひきとおどり原おとす事多め極かに至ては極つ始  
てはまくしきるを方へましては嘆疑もせず省  
庵へちをじあアレ極微もりをえ、あくすうち  
極微くぢうるやうとては序とあるがくしむる  
とては序とあるがくしむる

二 うれしにやうやくもうれしにやうやく  
はうむをすらううむるわ言おほせばからううく  
あやうそねハ玉毛ごぬぬ沙沙人ハ流もどら哈好もする  
えくねうゆ此れ至る上ううじゆト色を多く色々  
省庵謹此元節改、ひきとおどり原よじて序  
とす、ひきとおどり原よじて序とす

元禄九年

ナフリ

角東

今うふね

まくわら

まくわら

一章多生毛石碑はえじら仰歌もあひてお  
ぐとし若うめの祀支略石はえじら仰歌  
若うめの祀支略石はえじら仰歌  
とおもく白トシテ仰歌也又モとめ傍かしゆ  
内モモヤリニ立りおもを多モモトモ  
とつま川へり城を急と云ふとさるがれおもを  
うれみを碑方せらりしらぬきを  
まも多はす滿妙年し石とゆゑあらわ

元保八年  
九月

角之本

多角の毛石

一文恭初をかくはたす、あれもゆゆせりもぢ  
りしも千々多もあらんとらんとまくはす  
さかうよしと布衣著るもゆふ苦心とぞま  
まのゆと縮毛をりすをちゆとゆえみからおれ  
おも

元保十二年  
四月  
あく

つま川へり城を急と云ふとさるがれおもを  
多も多はす滿妙年し石とゆゑあらわ

官様お縁化たゞしらうあらへぬうし  
一徵君我邦アリ朝鮮年号稱里字も一文字闕。

化字をもりえと接ひたる事、と申す  
署シグらうせらやくうし不詳傳之字取あつた  
か一字闕クモト三面、跡シテ今セし移うそれ  
む文字カタカナ写スルハヤギ、も承し古例尺又如  
也、碑記と拂スル御闕字ミツカニ、例スル乃乞

ムトウシモ一字闕クモトすむらりの新年号監  
魯王ルウはあゝ朝、唐之歷代と称し折合あくとく  
是六闕字ミツカニと定め、官様化名より寓す所也

此等名稱上スルし

一碑而以自承、之無を念せし者。とくに詮模  
詮模シム如後、うち此般碑傳シマツのせしる、跡字も能  
み知シラフしらるる字貼シマツを書かスルえりやあ  
ば色シマツあり難からぬ。

一年月日名號爲之不存時をもすゆゑ、是より  
何シテし

ちも併し、向む歴史ある形刻シマツの迹もしきす  
子をシマツる。

嘗て如ち併シテお極シマツをもり、トミテから事序

次第以向之如之者亦已復子之猶也以修也

卷之三

元禄八年  
壬午初夏

二三

一章の先子文集を序記するにあつては思ふ  
はお多ノ人少くひしとぞよもや者有言ゆ  
つへも上生てゆる事人じうちりてうめ  
うと角、あらかじめや ちよほんせりかく  
碑文を寫すまゝ、荀菴老人す。どうぞ。

ちくはくとせうかんをもつて、おもむくにほひ  
玉筋のゆきをあわせたまひを、かねてよりお申  
みを仰  
おもておもて、おもておもて、おもておもて

何とぞ お尋ねり要は、お尋ねり事は、何とぞ  
えども、お立ちお立處處又お立ちこなはる所  
堅苦辛淡やうの事は、苦難氣に、仕事あらじめの所まで  
ゆきぬる事無れども、立候之を若事とすしゆ事  
立候方首席とあるを以てして、仕事とてお立ちく  
事立候方からいへば、仕事とてお立候事とも  
立候事も

元禄九年

ちりとも

かわら記

元  
角よ

すゑのわ

一文考定の初章は酒菜をもてて席を

匂もとくに詠歌をもつて歌ふが、其の題は

アラル。首行は便押をもつて、其序は「此年

より」とある。

元禄四年

まこと

ゆすり

一文考定は酒菜をもてて席を

ありて便ひけあまうもとからかと黒毛ラモを

あらわし、ちりともと良ゆるを守るが、高田トナ

紹也、お湯取ト一詠でまくせあらわるを上うし

像三段、これを詠むじだ

かわら

元禄八年

かわら

一生をもて孔子ノ牌位出不レ候先主もトヒテ色

列、奥村玄波元名五郎之左衛門、勝又、おれい、  
以、生之年かわら、傳云平岩仙桂としまる京都が、

至後方、まことにちく仙桂、十数年已矣、おれ

しに以此牌先手寧水、又せし之舞多らじハ孔廟  
之碑、代々よりかすぐちの十哲ノ碑ゲラ、  
大形の額も内方、郷学校ノ碑としてあるを記す  
久くよりして今年お昌平、役十哲ノ碑出来  
前此碑も又今や入じ又りう方へ貸して、  
元禄五年  
五ノアミ

アミアミ

サムモリ

アム

一文若文集序先手荀子を譲りて多題跋  
之碑、之より多稿斗しき收掌か、序文、年月  
改々多稿字、乃は豪言をあしらふ

アミアミアミアミアミアミアミアミ  
サムモリアミアミアミアミアミアミアミ  
サムモリアミアミアミアミアミアミアミ

一先手此方の新奠之執行、板省庵と、文若并賜  
於此より以後、おんじせ及先手の序文、撰  
文、序文、序文、一これとお会いを差せ、もと  
もみくは、既に、おとちの、此を右庵と文集と未执行  
以所大く為り、除して、今年閏冬月、急入て、即上  
と承え、之を、此を、先手右庵と、之を、  
假、聖廟と、擧る新奠も、行、之を、执行と、もとを  
收管、遂に、之を、新奠も、行、之を、执行と、もとを

おまえも白鷺宮造の草紙を取らねども達  
聖廟御行寫記と二句を事実更にうら改之せば  
一毛です。其の歌草より序文をもととし  
序文と味と序文を序文改定と題と序句をもと  
ちから潤多て能ひ

一首毫セ文恭と唱和と詠文極端此等も又文集、  
編入してあると云ふとひるべし範又考訂の如く文  
多有り故に母古傳テ歴々古之古也と云ふ也  
は仕事て戸浦戸近松の筆と云はば之を云れ

さてゆほきて此事論首序と注後古傳章  
總開著し乾板為みとせあらが先手書道を不寫  
ちぞく文集編著し此當考訂用にちくあら筆  
もいとくのよしは内を考引すと考引かくわはふも  
「自副中六冊」も仕様る也と考引し紙と印戸  
すと本ら檢訛文集の行の傳寫と詔と云ふと  
凡手事不審とすれども一貼り下す  
う乃章と傳せ考引と云ふと云ひて云ふと  
之はえも文恭の讀書可とせば折りや縱然の讀也

筆より書写枚將及一弓兩弓字画も多ひるる  
折りも省庵をとて爲意中集が集をば力ある  
一篇もそあお出しゆかき漏れをも一そくを補入  
ト又から右ニテ序ニテ序本がみくに不限あす  
多字をうむりし者有章も幸く機会、名づらを  
以ひつたがゆう形の身太校ひえども國の事は  
戸毛山を立ト

一文考唱和詩文とくとく行な事、トモ皆方々  
文考詩とこそとくとも候、ふむちゆの可と詩とモ  
おれ承り付せんに人、身の後悔の泣心を

御文考設置、人尺友をそ他からだんじらうちあ面  
富もお化せと八角も詩一そて寫る事、うもかくちう  
すしの可おまちあきそ思えどりもあめくも思  
す玉宝もそそくわざとおから被寄るふりうわざと  
うりて弓弓方ナ酒海、徳、うわし口有

元禄十六年  
九月

山崎玄孤

一文考神と南下の事あ、終事と紙、任む利の事  
す、弓波まで事あやもか事と水戸もかう、事  
かう、弓波と日本印先で事ト神とおはく心跡等

もも多々ある後もす

一多々失へれども

とすもやう「あわせまかあたせ」とも様を

珍文書をとくに

元禄十六年  
十一月

多々

珍文

珍文

一多々小像三幅の物をしきて画仰、此の後で云  
誠て面於斗み事づけをうなじて焼捨と  
多々とて、它焼大山三幅六小像もしくは  
記して、其等より、此の後、一切技  
能を失す。而て門戸を守らばほり、三人、どうぞ  
えんとめのむきしろ、三人、どうぞ  
此とて、口を詫ひ、心を詫ひ、心を詫ひ  
氣付ぬままで表しき、焼捨とくに、此の後  
多々とて、其もしくとも、三人、心を詫ひ、心を詫ひ  
心を詫ひ、心を詫ひ、心を詫ひ

心也。不、うるさくはなし

元禄十四年

立川市立図書館

芦屋市立図書館

立川市立図書館

以テ石碑を刻み奉る事よりも沖、西洋風の時  
から、伊豆朱子墓碑面、明徳菴子朱子墓  
碑文等といふ言ふ事が又彼古例工考に於て見  
る所刻印の事例は、伊豆碑面、子某子と争例おえ  
りし、横尾伯業て有庵善人之碑文もか碑面争  
はれ凡て、之をも、キレハシラニシ所也、と見て

乃子朱子と争ふかも誤べぬトサ一筆紙下

もし明徳君之三字が先手で平成二年素也うちある而記す  
も、もしくは、後手で、併てかと争ふもの或、明徳君文  
恭子朱子墓碑と争ふものと云ふが、この二種たん  
後手に争ふ事とあるとして、刻碑面を却て之を争ふ  
所也

立川市立図書館

元禄八年

立川市立図書館

立川市立図書館

一文恭子像左ノ「毛子中也」を中也ゆき室に傳  
す説ノ小像も又善手しきとて今急々

貼紙をうりてはるを多めにまくらゆるも好  
もとめゆまし

一瓜がざれし、おうちがざれや、折み半でしたま  
下神をすきじからちと短くやし、ねむるう良  
り

元禄八年

かうのね

851

朱文恭像三幅

無記

柳家翁像三幅

10

少翁像三幅

10

つねわき三幅

725

りふき三幅

10

ちよ下しきうけよてどぬけちよ古事記入、リキテ  
ちよゆき身を写す善い所す新事記しゆ事記を  
叶下誠、面色ヲキシじくおれとよめを吉田  
ノ聖人向由色布々立工天代うちし折りに  
往復もよちよしのぐくとよみとよみ味れフ会点行色  
シキ一尺としわとし行有り色方、吹きと折りを  
被り工天代立工天代うちし折りにしわとし  
音上じせゆちよみとよみ味れフ会点行色

仰ひる善すしもん言あとぞ。され

一ちとを計るも鴨しか。そよぎう無む。今一鴨の  
毛皮と江戸の肉色。うなれおれ。じとううと  
おおきはふうのふうむらし。

元禄八年

かづりたま

かくわ

かく

かくわ

一文恭仰形刻。身事。作想死前  
意と。右の志入。又恭向余七才子。  
おと角氣。代り。年も捨閑

代り。右の志入。身事。漢。後樓。或。身事  
身下。も感激。右の。身事。身事。一。も。ある。雖  
上。と。恭。佩。銘。刻。し。よ。う。や。序。と。書。右。も。と。也  
私。に。往。う。と。之。と。上。て。右。方。一。面。と。研。と。仕。と  
そ。と。と。あ。と。し。右。の。が。後。と。方。あ。と。し。も。考。と。身。事  
吟味。代。瀬尾林の方。を。身。事。形。刻。し。き。身。事  
多。ゆ。之。身。事。此。身。事。序。と。身。事。多。と。也。

元禄八年

かづり

かくわ

三人

了すはしきてちぢみ、山上を走り大、山腹を走る燒  
先もとを走り、それとつ夜ぬのあがも火下  
毛多きをも廢失し、まえ若かさきも燒して絶え  
渡れぬ、おもむき火、あわ、おきひたすゆ、とへゆる  
うめいとめと一あし、傳せとばらきゆ、初を獨り  
とおぬれ、天と地と萬物と、一あかくおほき事と、被燒失ふ事  
氣毒れ、生と死と、多死と、生と死と、もとと終る  
事とあらば、人間も死ぬ事と、死ぬ事と、人間も

故宮舊藏

右往復書

三

ナニヤ

秋山八兵衛  
名孟慶字久續為官庫写字從印符十三云四人  
月傳之歸三年庚午六月二十六日沒  
小野宗三印  
名采對庄弟子掌水門人写字後出乃進其事  
今井小四印  
名弘濟字將譽号魚日齋新平子掌水門人書寫名  
印不之治二年己巳正月十六日沒  
名覺字先民号澹泊齋又稱均於亭為史臣所載  
考之此印掌水門人  
服部利介  
名其衰號少人掌水以人写字後印符金五色三人  
月傳

右館僚名簿

原本

雜

正德三年歲次癸巳閏五月丁未朔越十有八日甲子  
蒞中內言筵三立原朝臣洞榮謹遣臣安撫

党告于

明故徵君文恭朱先生之靈曰、曩者先君義公立祠堂于駒藏、時余享不意登未之冬、忽罹回祿之災、宇袞更服、部其衰、克任其殯奉

東  
神主於忽遽之際、俾無震驚、爾來營造浩繁、未遑重建、深惟江都殷盛之祀、民戶輻湊、爰居之止、無時、畢方之孽難保、迺相攸于水戶城西、新構祠宇、岡阜盤迴、林木鬱蒼、拖江水而倚夾壇、擇峰巒而俯瞰、雖乏輪奐之美、足企肅穆之風、爰遷

神主、奠安于此、寔得其所、孰曰非宜、嗚呼

先生乘化而往、窅然不可見者七尺之軀、伏

義而行、儼乎不可泯者萬世之名、

先生之文、如長江之一渴千里、

先生之節、如孤峯之特立、萬仞而其

德教之薰陶、士庶雨露之涵濡、潤澤

操守之卓越今古、如日星之粲爛炳彪、其有功於民生彝倫、莫知其然而然也、覩物興懷、遇時展

敬雖

音容之永隔、庶  
精爽之不渝、庶

神其饗之諸來

歎來

享鳴呼尚

饗食

安寢子是代

此六字御筆

朱舜水遺物也



右文祿十年五月廿七日為移向東方之記

元祿十一年舜水先生墓祭儀節

元祿十一年二月二十六日

西山公祭明徵君朱

先生之墓前一日執事者講習儀節掃墓除道點祭  
器設卓牲牷黎明備三牲陳列奠饋廣品設庭燎祝  
及諸執事就位序立

公晨出西山至瑞龍山憩館

著道服戴燕尾進至墓道盥洗參神就位鞠躬拜興

拜興平身二詣香案前跪上香降神司爵奉爵自左

右爵受酒公取醉酒俯伏拜興拜興平身三拜奠饋

傳饋以次奉飯羹索麪

奠饋取之奠于卓上

公進至卓前行初獻酒司爵

司樽奉爵酒注進奠酒進饌取之奉

公親奠之

奠酒進饌

傳饌傳設饌

一  
種  
奠  
饌

自左右如前復位諸執事皆跪祝讀祭文

公又進至卓前行亞

獻禮奠酒進饌奉爵酒注設饌

行終獻禮奠酒進饌

侑食司樽奉酒注

自初獻儀

禮畢

奠茶復位一揖而出祝焚祭文

### 陳設圖

西山公親注奠酒

三爵酒魚飯

鰐鱠

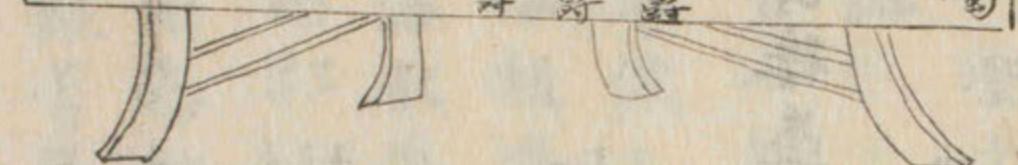
性用全體但不去毛荀寫白差前

外

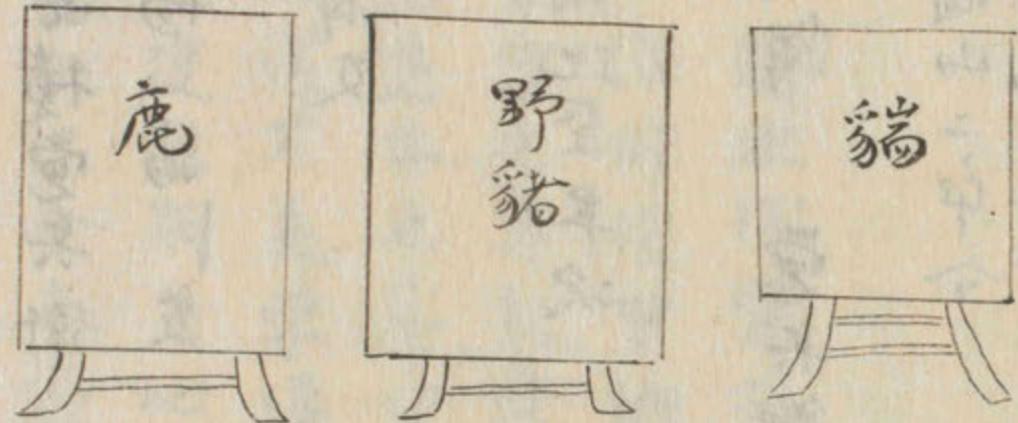
內

墓

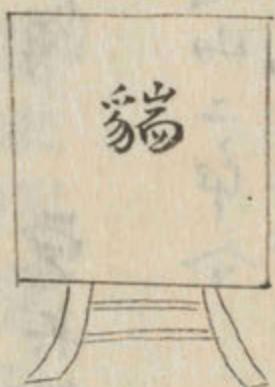
枝柳	野鷄	燭
九年母	雞卵	
餛頭	章魚	
ボウル	鮓鮆茶	
落井	比目魚飯	
酢	快子臺爵	
醤油	豆腐	
肉桂	索麪筋	
胡椒	獨活	
糟瓜	牛蒡	
	燭	



鹿



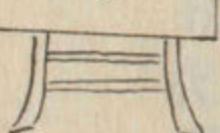
野豬



貓

XXXXXX

香案



神降

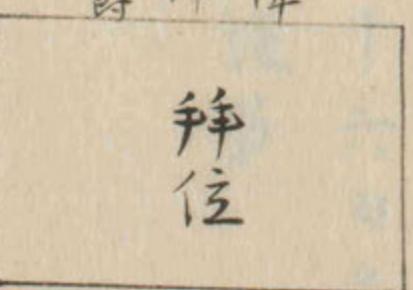
辨位

外

內

內

外



祭文

位祝

執事

陳設

安穩党兵衛 布衣  
楊清友 道服

祝清友

司樽朝比奈半次

布衣

司爵接奠饌 党兵衛

傳饌岡山二印今 青襍  
鹿野文八 青襍

祭文

維

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔越二十六日辛

未從三位前權中納言源朝臣光圓謹呂

潔牲粢盛之奠致祭于明

徵君弟水朱先生之墓曰嗚呼

先生德邵行潔才美學優遭時屯蹇微辟不就慟哭

有志恢復無期矢心金石勵操冰霜流落海外

艱苦萬狀保全衣冠始終一節幸稅駕於是邦

得設醴于吾土胡斯文之不淑處興亡之歎

鄉閑遠隔一萬餘里

音容永違十有七年欽慕

精爽瞻戀

提誦碧石樹碑勒文紀德守臣明

徵君度成宿昔之志稱曰

子朱子式彰景仰之誠時維仲春節屬清明灑掃塋域祇薦歲事尚

饗

墓祭禮畢前如祭后土布席墓左設杖其上陳設庶品

奠饌奠飯

公就位俯伏降神

無參神儀司樽司爵奉爵酒注進自左右

前如祝就公左讀祝文行亞獻礼終獻礼並如前但無進饌侑一揖而不出祝焚祝文礼畢

陳設因

桺子

燭

饅頭

落甘

飯

爵

鷄羹

羹

爵

燭

雞卵

索麯

爵

燭

執事同上

祝文

緒

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔起二十六日辛未從三位前權中納言源朝臣光圓敢昭告于土地之神躬修歲事於明徵君舜水朱先生之墓惟時佑佑實賴

神休敢以酒饌敬伸奠獻尚

饗

右史破禪禰

萬治二年己亥

舜水先生

今年長崎ニ至ル先是或ハ至リ或ハ去ル今年ヨリ後遂ニトヘル故ニ出ス年五十九

萬治三年庚子

舜水

寛文元年辛丑

舜水

中原陽九述畧ヲ換シテ安東省庵ニ與フ

寛文二年壬寅

舜水

寛文三年癸卯

舜水

寛文四年甲辰

舜水 今年 義公宅生頃ラ長崎ニ遣シテ先生ヲ訪フ

寛文五年乙巳

舜水 聘ニ應シテ七月江戸ニ至ル九月水戸ニ至リ十二月江戸ニ歸ル寛文帳云銀百枚廿八月捧

安積覺兵衛 初彦 覚

九月舜水水戸ニ至ル父貞吉ノ願ニ依テ舜水門人トナリ從テ江戸ニ至ル時ニ年十歳

今井小四郎 初弘 弘濟

系作將興今年父死シテ扶持ヲ賜舜水ニ從フテ学フ十四歳

寛文六年丙午

舜水

是年與陳遵之曹及諸侍男書

安積覺

今年父死水戸ニ歸リ父死メ下寧令トナ又江戸ニ至リ舜水ニ從フ

寛文七年丁未

舜水 月又水戸ニ至リ漏鐘ノ銘ヲ作ル 鐘牛ノ自實藻ノ跋ニ先人不起矣間一歳先生又來水戸トアハ舜水來ハ八年ナリ此年ニ來ルトアハ謬カラズ

寛文八年戊午

舜水 水戸ニ至ル

安積覺

舜水ニ從テ江戸ニ至ル舜水功課自實藻ヲ作リテ戒勵セラム三月ナドヨリ九月ナ

寛文九年己酉

舜水 年七十 義公先生ノ壽ラナス今年諸矣立廟因說ヲ作ル

寛文十年庚戌

舜水 今年學宮因說ヲ作

寛文十一年辛亥

舜水

寛文十二年壬子

舜水

儒生ヲ卒ヒテ 祀奠ノ礼ヲ習ハシム 史蹟事跡明年ノアトス 今文集ニ述フ

延宝元年癸丑

舜水

再ニ儒生 祀奠ノ礼ヲ習フ 史蹟事跡明年ノ事トス 今文集ニ述フ

延宝二年甲寅

冬史蹟ヲ河内書院ニ移ス

舜水

十二月廿五日 史蹟ヲ馬場東ニ移ス

延宝三年乙卯

十二月廿五日 史蹟ヲ馬場東ニ移ス

舜水

延宝四年丙辰

舜水

延宝五年丁巳

産セ八十日 次記ヲ寫ス

舜水

合ガ銀百枚外六尺四人分銀廿枚ト定十月ヨリ定マリタシユヘ 今年六月ヨリ  
ノ合ガ銀百枚外六尺四人分銀廿枚ト定十月ヨリ定マリタシユヘ 今年六月ヨリ

延宝六年戊午

舜水

孫毓仁長崎ニ來ル

延宝七年己未

舜水

義公八十寿ヲナシタマフ

今井弘濟

四月長崎ニ至テ 朱毓仁ニ見セ七月帰ル

延宝八年庚申

舜水

咳血ヲ患テ牀ニアリ

天和元年辛酉

舜水

天和二年壬戌

舜水 四月十七日死于八十三

貞享二年ひ丑十二月廿一日舜水ノ孫朱天生長等來リ兼テ今井山田中  
シタニミ文恭先生ヲ祭ル此夕祭事ヲ修ス 義公駒込山莊文恭ノ祠堂ニ至リ  
タニヒコレラ見タニラ御服即上下辰中刻出即刻歸邸

服部新介某

元治二年己巳舜水附寓三月初書駒込祠堂守東又後祠堂燒失付十萬

右史林年表

國姓爺尺牘 一帖

國姓爺コクセイヤ鄭成功水戸の舜水先生母贈るところの尺牘を草  
書十五行百九十餘字其書又云一別萬里常望東天眷戀不  
休ムニ森不肖荷光武重興之義不得舍于寢食之間雖然  
力微勢疲無大志狼狽今欲下遠憑日本諸國矣假ヤダナ少兵上恭望  
台下代森乞之諸國矣便是與台下曾謀之處也  
台下今徵採薇客而莫忘國恩懇ムニ

右上

舜水同盟朱公丈人

床下

恩弟鄭森敬首

按すも國姓父爺として名は森字ハ大木と云ふ隆武  
て朱姓と何と云う時成功と云ふを以て今舊友の朱舜水と贈り  
書翰ふと以て舊名よりて森と云ふもされど此名の  
上云成功と云ふ朱字の印と抑する舜水先生明の監國魯王の  
勅諭を以て予と併せ考ふべし右下え高の漫筆又其勅諭及  
のをく云予豈々寐賢哉求め延佇して以て族姦殊々嵩スミヤカニ勅  
爾號召即言旋前來て予が恢復乃事業に佐くべし當々爾  
が節義文章に資くご幸又免とくとく安<sup>ト</sup>く他邦又濡  
滯することなれ欽也特々勅すくし舜水の奏疏タクス臣崇  
禎十七年又於く恩と蒙く特々徵<sup>ト</sup>ニ次就すすれども

江西の按察司副使に授らり<sup>シ</sup>岳都職方清吏司郎中と兼  
鎮臣方国安軍に監す復拜せずとも芝山會稿<sup>ヨ</sup>舜水公  
稱<sup>ト</sup>之<sup>ム</sup>添工とするもの傳聞の誘なり<sup>ト</sup>又<sup>ト</sup>是本朝明  
暦三年なり<sup>ト</sup>朱子瑜字ハ魯瑛舜水の人也<sup>ト</sup>又云河南人朱  
舜水明人以<sup>シ</sup>崇禎帝國<sup>ニ</sup>殉<sup>テ</sup>又<sup>ト</sup>死せず<sup>ト</sup>是日本  
よ外<sup>ト</sup>こと<sup>ニ</sup>及議する所<sup>ニ</sup>此疏<sup>ハ</sup>凡<sup>ト</sup>此<sup>ト</sup>を以<sup>シ</sup>れども曾  
く補仕せず何<sup>シ</sup>此<sup>ト</sup>又<sup>ト</sup>ハ<sup>シ</sup>んやも陳宣中<sup>ハ</sup>屬<sup>ト</sup>の<sup>ニ</sup>ぞき<sup>ト</sup>  
内<sup>ト</sup>す<sup>ト</sup>之<sup>ノ</sup>明季遣聞<sup>ヨ</sup>曰福王崇禎十七年五月四日以<sup>シ</sup>  
く監國となり十五日位即<sup>シ</sup>明年乙酉弘光と改元す清の豫王  
既<sup>ニ</sup>江浙と定め<sup>シ</sup>北京<sup>ニ</sup>帰<sup>ル</sup>弘光<sup>ハ</sup>扶<sup>リ</sup>去<sup>ル</sup>西張<sup>カイ</sup>

堂吳春枝黃道周鄭芝龍唐王代立于監國王とし隆武  
と改えす貝勒レハ斬太祖の後なり帝位み福列ニシム靖江王

閏六月十五日

靖江王

亦監國と稱す隆武五斬

太祖の後なり帝位み福列ニシム

瞿式耜永明王代立ツ桂王の子

ナリ監國永略と改元す戊子十月十四日ナリ西戌福建萬

相模觀生何吾驥顧元鏡と十一月ニ於く隆武の弟唐王聿

鏗と擁立す監國年号紹武十月初五日杜永和紹武并

周王益王遼寧等伐擒ヨリテ晝くシテ斬

ロ

杜永和奉トて監國とすこれナリ先是清兵浙又入潞藩城を

以テ降り張用維方達年柯夏卿宋之普陳函禪熊汝

霖孫嘉績等ことと又魯王と台又迎立朱大典ホ、カタマク王と

造バ一て表と上く勅セイす魯王紹興又監國ナリ〇此尺牘の真  
跡董復記者と主人江因世恭ナシタクニ承伏して家塾又櫻刻すトコ  
ロトコ

鄭成功書

紅葉飄來シテ

長崎濱武氏藏高え泰所

藏二幅之具ヒ一〇小使と附トテ云鄭成功名ハ森字ハ大牛父芝

蓮字ハ也黃一官嘗ト日本ヲあて婦と娶マ成功以生是火  
光也と芝龍心ニ小異トす成功本ニ長ト後七閏又之隆武  
呂子陞見ル之ハ朱と賜ひ名成トはなたじこれトノ

中外國姓書と紹す

右君手書一覽

文恭先生ノ孫毓仁長崎ニ來ソテ先生ニ見シ一請フ然しに國禁

ミテ先生ノモトニ至リテ見ルヲ許サス當時

義公文恭先生の長崎ニ行キテ毓仁ニ達給ヘドノタマキ先生

ノ答ニ祖トシテ孫ノ為ニ長崎ニ行ト達フ一本意ナラスト申上シト

ナリ東墨先生宿

文恭先生老年ニ及テ薦テ

義公へ歿ハシシハ我死タル時ハ厚ク葬ニ及ハス唯棺槨ヲ堅  
固ニシテトリサケルトシ諸ヘシト是ハ明朝恢復ノアラハ子孫ニ至リ  
テ體骸骨ヲ移シテ故土ニ至ルモアラント深處ノ思召ナリトツ此君事也  
先生宿

文恭先生遺書

五經集注十五本

監國魯王敕書一箱

奏疏一卷

祭文一卷

先世縁繇一卷

履歷

一卷

紙牌一卷

享禮陳設一卷

叔莫筆記一卷

古文奇賞三本

古今通流八本

讀史快論三本

襍著一卷

小李將軍画一箱

令牌一枚

共一套

開番閑防一枚

先生印文釋一枚

祠堂圓一枚

康熙丙辰科殿試狀元題名錄

周尺一本

牙笏圓一枚

編次諸家文集三本

平尺一本

應制詩式一枚

陸宣公全集四本

先生印章五箇

安南供役紀事一本

蘇水真書一帖

酉陽搜古奇編三本

太平廣記三本

續藏書一本

篇海八本

豹府十本

詩教輯要一本

唐詩選一本

訓蒙圖彙十四本

闡異一本

春秋左胡選四本

公穀纂一本

古文奇賞六本  
名文珠璣七本

古文纂一本

必讀古文一本

古文品外錄六本

元文類十一本

五經奇英五本

四書人物考一本

小學孝經二本

大學衍義補一本

欠本

家禮正衡一本

交繩一本

難經一本

文恭親蹟圖錄一本

孔子家語五本

說苑四本

同三本

新序一本

日本史略一本

奇註倭語一本

安南行役紀事并節畧一本

并節畧一本

